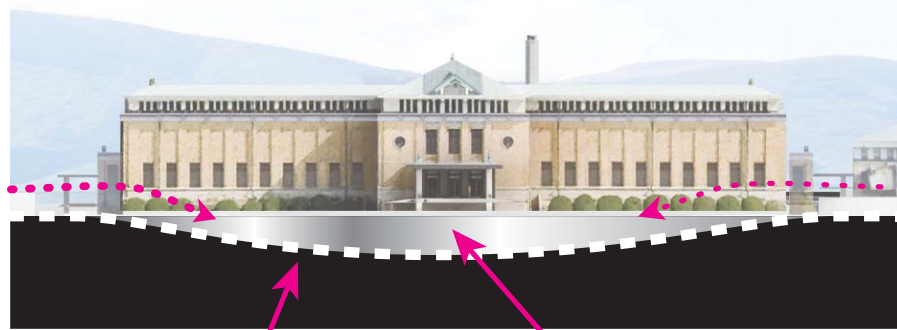


①世界的な美術館の潮流と京都ならではの機能を持つ新しい未来志向の美術館

■親しみやすく、にぎわいのある美術館

現代の美術館は、芸術・文化の中心施設であるばかりでなく、その集客機能を通して、地域、都市における、**にぎわいの場、憩いの場、経済効果をもたらす場**であることが求められます。

- ・神宮道に面した前庭を緩やかに傾斜させ「**スロープ広場**」として整備します。道路から「スロープ広場」を下った地下1階レベルに、本館、新棟共通の新しいエントランスを設けることで、人々を自然に美術館へと導き、京都市美術館をより**身近な存在**にします。
- ・「**スロープ広場**」は本館に正対する**賑わいの空間**、神宮道と一体となった**参道空間**としても機能します。美術館だけでなく**岡崎公園全体の中心的な広場**として、公園全体の賑わいを創出します。



人々を導き、賑わいを生む
「**スロープ広場**」

エントランスとアメニティ空間を内包した
「**ガラスリボン**」

■アメニティを介して、まち、公園とつながる美術館

京都はその特性から、歴史あるこの地区に訪れる多くの観光客、近畿圏の美術鑑賞者などをスムーズに展示室やアメニティ施設に誘導する必要があります。

- ・緩やかに傾斜した「**スロープ広場**」の正面には、地下1階部分にエントランスロビーやアメニティを内包したファサード＝「**ガラスリボン**」を挿入します。このリボンを介して美術館内部の賑わい、催されている展覧会、イベントなどが「スロープ広場」に表出しまちへと発信されます。
- ・「リボン」には、デジタルサイネージやポスターなどによる**岡崎公園全体の情報を掲示**し、岡崎コンシェルジュ、カフェ等とともに、**岡崎公園全体のアメニティ**としての役割も担います。



スロープ状の広場の例
カンポ広場（イタリア）

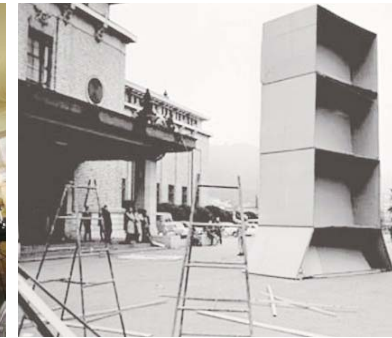
■未来に向けて、歴史を紡いでいく美術館

古くは六勝寺の時代から、内国博覧会、平安遷都1100年祭、大札奉祝など、岡崎には長い歴史があります。本再整備にあたっては、円勝寺遺跡調査を踏まえた外構計画、既存建物意匠の最大限の保存など、歴史を尊重した計画を行います。

- ・エントランスを地下に移すことで、意匠的価値の高い**西側玄関ロビーの内装を保存**します。
- ・現代美術部門を新たに設置するに当たり、リチャード・セラ、野村仁らの作品をいち早く扱ってきた**京都市美術館の現代美術の歴史**を引き継ぎ発展してゆきます。スロープ広場の積極的な利用など、内外に広く発信できる空間を確保します。



西玄関の内装を保存



野村仁「Tardiology」1965
京都市美術館での屋外展示

■京都の文化芸術と連携し世界の人々を魅了する美術館

市内の各美術館、公共施設、京都市立芸大との連携、民間企業による支援や法人会員、メンバーシップ制度など、美術館単独では実現不可能な、多様な運営、企画に対応できるフレキシビリティが、国際都市・京都ならではの美術館の将来像だと考えます。

- ・特別夜間開館やレセプションパーティ、ミーティング、企業研修等への大陳列室、中庭の利用など、**様々な使い方に対応**できるよう、各部屋を適切にゾーニング、整備します。
- ・カフェ、レストラン、ワークショップ室、講演室は、美術館本体閉館後の利用、休館日の利用も想定されるため、**管理区画**を設け、独自の利用が可能な計画とします。



中庭を利用したレセプションの風景

②本館と新棟を結ぶ新しいエントランス・ロビー

■多くの来館者を捌ける地下ロビー

大展示室の床を**1t/m²の耐荷重**にするために、一度土間コンクリートを解体して新設する必要があります。これに合わせて**大展示室の地下空間をロビーとして増築**します。このロビーと、本館西玄関の地下を繋ぎ、広場からの来館者を迎え入れます。ここを新たなエントランスロビーとすることで、**現在の狭隘な玄関での諸問題を解決**し、本館と新棟のそれぞれへスムーズに来館者を導きます。

■本館玄関はできる限り保存

本館の4つの玄関は凝った意匠、贅沢な仕上げとして歴史的価値の高い部分です。とくに新棟との接続に際しては正面玄関を拡張・改築して新たなロビーとしたり動線を整備するのではなく、**大展示室の一部分を縦動線として利用**することで、文化財としての位置づけを明確にします。

■本館西玄関の利用方針

本館西玄関ロビー(1Fロビー)は、既存建物に不足していた**休憩やリファレンスのコーナー**として利用します。「スロープ広場」に面して神宮道や平安神宮を臨む既存西玄関は、くつろぎの**テラス**として整備し、**パフォーマンスやインスタレーション、コミッションワーク**を行う舞台としての利用も想定します。

■美術館の東西を結ぶ

地下1Fエントランスロビーから、1F大展示室に上る階段を整備し、美術館を貫通して**西側神宮道から東側日本庭園へと抜ける軸線**を整備します。

2FL.....

1FL.....

B1FL.....

B2FL.....

新棟展示室

新棟ロビー

共通エントランスロビー

チケットカウンター

カフェ

テラス

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

2Fロビー

日本庭園へ

本館展示室へ

新棟展示室へ

ロビー

チケットカウンター

神宮道

スロープ広場

大展示室

貴賓室

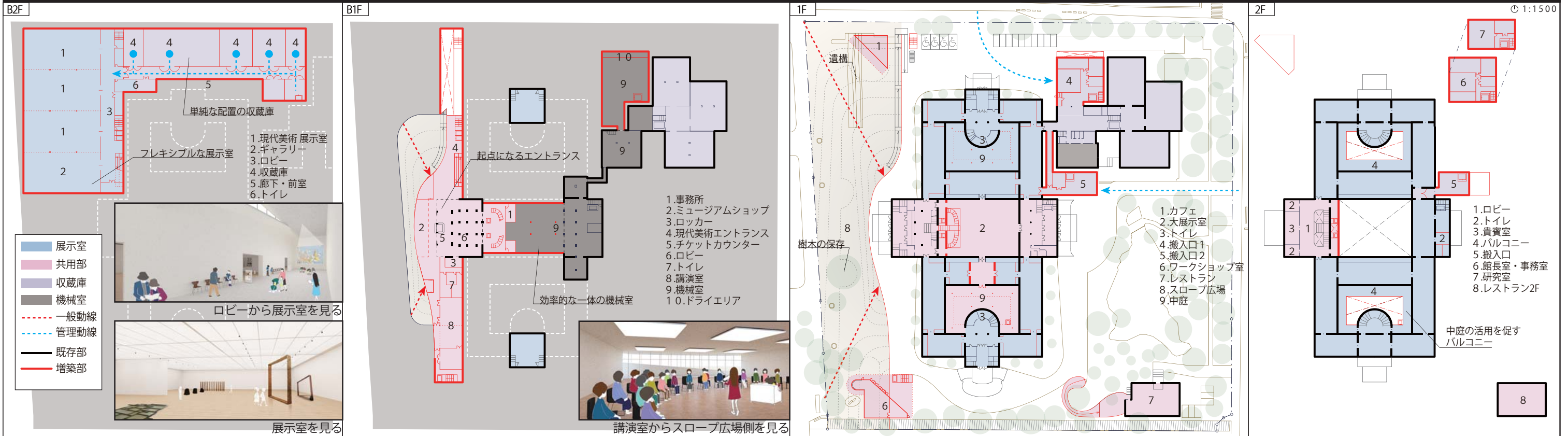
2Fロビー

日本庭園へ

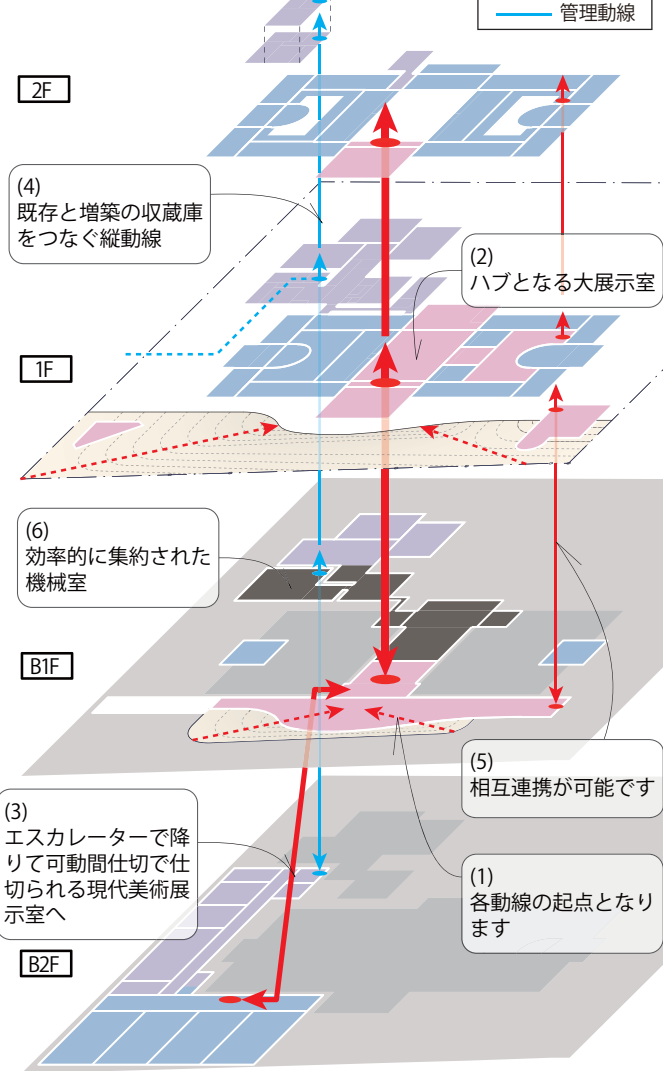
本館展示室へ

新棟

③岡崎地域の周辺環境との関連性を考慮しながら美術館全体をコンパクトなゾーニングとします



【主な縦動線の関係】



(1) スロープ広場からエントランスロビーへ

スロープ広場から吸い込まれるように地下1階エントランスロビーに入ると、ミュージアムショップ、ロッカー、トイレ、チケット売り場があり、**ここを起点として**本館展示室、新棟展示室、講演室へ来館者を導きます。

(2) エントランスロビーから本館展示室へ

本館展示室へは、縦動線を使って大陳列室へ向かいます。ここは展示のほか、**大型展の際の行列などの待機場所**としてや、**仮設ショップなどの設営場所**として使用されます。また1階北展示室、1階南展示室、中庭への**ハブとしての機能**を果たします。

(3) エントランスロビーから新棟展示室へ

新棟展示室へは、北の現代美術ロビーを経由してエスカレーターで地下2階ロビーへ降ります。現代美術展示室と多目的ギャラリーは**可動間仕切りで仕切られる**ようになっており、一つの巨大な展示室（2000㎡）としても、各々500㎡の小規模展示室としても利用が可能な**フレキシビリティ**を備えています。

(4) 収蔵庫から各展示室へ

既存収蔵庫の北側に搬出入口を新たに設け、増築する地下収蔵庫と縦動線で結びます。廊下状の前室に沿って収蔵庫が並ぶ**コンパクトなレイアウト**になっており、**作品の運搬ルートが単純で効率の良い配置**になっています。前室から直接ロビーへ作品搬入が可能です。

(5) 講演室からワークショップ

講演室とワークショップは本館と**独立した運営が可能で、お互いに連携**することができます。

(6) 機械室

搬出入口下と本館大陳列室地下の一部に機械室を増築し、**本館および新棟の機械室を一体としてまとめることで、高効率な管理運営が可能**です。

④アメニティ機能を介して全体を繋げ、多様な美術館の楽しみかたを提供します



■カフェ

岡崎地域の重心の一つと言える交差点には、ロームシアターや平安神宮を訪れた人々も気軽に**短時間滞在できるカフェ**を配置し、**スロープ広場に面した大きな庇の下は屋外テラス**として利用できます。また、**視認性の高さを活かして美術館や地域イベントのバナーを掲出**できるようになっています。円勝寺、成勝寺、二条大路末の**遺構**に位置する箇所にはその跡を表現し、**岡崎の歴史の重層を感じられる設え**を検討します。

■ワークショップ室

岡崎地域の玄関である敷地南西に岡崎コンシェルジュが併設されたワークショップ室を、**既存樹木をできるだけ保存しながら配置**します。ここでは広場に面した**公開制作**や**底下での屋外制作が可能で、美術館の館外活動のショーケース**として機能します。

■レストラン

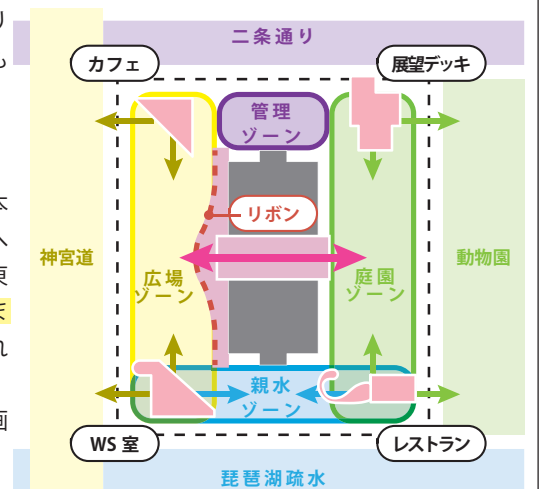
旧事務所棟は**日本庭園を前庭**としながら、疏水に向けてはバリアフリー経路を兼ねた**テラスを持つレストラン**として改修・整備します。季節ごとに趣のある風景を眺めることができるテラスは、**結婚式のパーティや貸し会場**としての利用も想定しています。

■展望デッキ

日本庭園と知恩院を望む収蔵庫屋上には、**躯体に負担をかけない範囲でウッドデッキやベンチを整備**し、動物園帰りの人々や近隣の人々にとっても憩いの場となる**展望デッキを整備**します。

■新棟・本館

広場から新棟エントランス、本館の大陳列室を通り、東玄関へ至る共用部が連なり、敷地の東西の賑わいと静けさをつなぎます。**リボンと広場を介してそれぞれのアメニティを連携させる、連続的な美術館体験を計画**することが重要と考えます。



① 岡崎地域全体の人の流れと滞留をつくりだすランドスケープ

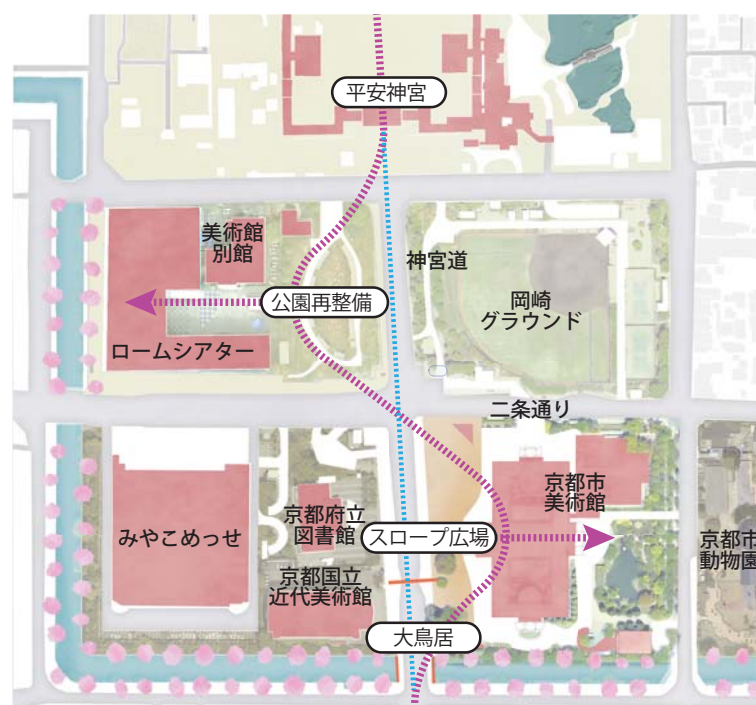
■北西側からの夜景



■流れと滞留を作り出すスロープ広場

現在の岡崎地域は、神宮道と二条通りが車・バス・歩行者の主な動線になっており、人々は直線的な往来に留まっています。美術館の敷地は例外的に地元の保育園の園児たちの遊び場になっていたり、疎水沿いの木陰が憩いの場になっていたり、動物園から日本庭園が散歩コースになっていたりしています。

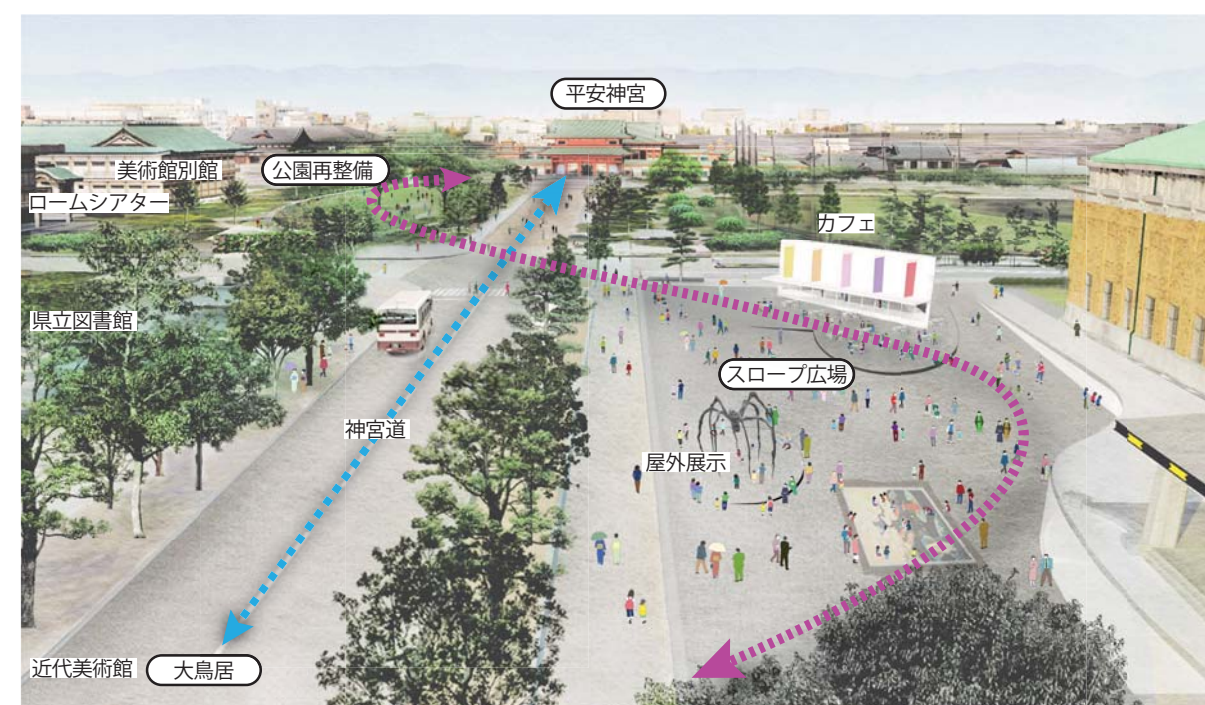
この特性をうまく岡崎地域全体に拡張していくために、スロープ広場全体が人々の交通と滞留の場となり、日本庭園から疎水沿いへの流れと接続し、ロームシアターや平安神宮へ、多様な観光客・来館者の楽しみ方を誘発します。



■スロープ広場の使い方

スロープ広場は、人々の交通と滞留を作り出すランドスケープとして、日常的に憩いの空間となるとともに、ハレの場としての屋外展示、ワークショップの屋外活動、カフェのテラス席としての利用など、常に人々が集い賑わう空間です。

夜にはスロープ広場が本館のファサードをライトアップすることで、歴史が積み重ねられた京都にふさわしい壮麗な風景をつくりだします。また、プロジェクションマッピングを使った大掛かりなイベントなどでは、緩い傾斜面に座って本館ファサードを見ることができると、美術館と一体となった空間としての利用を想定しています。



<岡崎公園の断面的な流れと滞留のイメージ>

松の参道・ロームシアター前公園

東山の借景

カフェ

京都市美術館

ワークショップルーム

大鳥居

琵琶湖疎水

②本館と調和をはかりながら岡崎公園の周辺施設と連携して新たな魅力を発信



平安通りと二条通りの交差点からカフェを見る



疎水沿いよりワークショップ室を見る

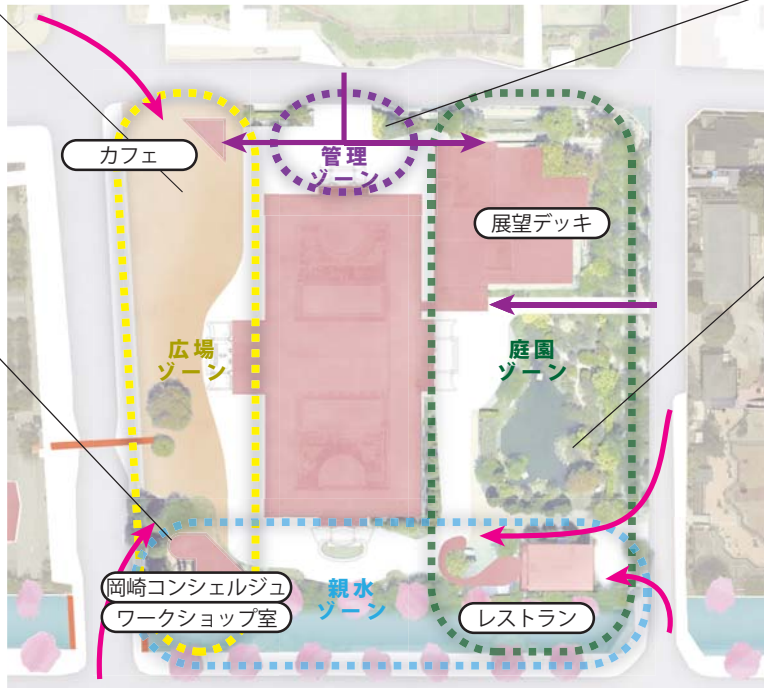
現在連携がとれていない岡崎地域の各ブロックに対して、美術館敷地の四隅に、アメニティ機能を独立させて配置します。このことにより、それぞれを端部とするゾーンで敷地を捉え直し、**岡崎地域との関係を再整備**します。大きなスケールの借景や、魅力的な地域資源が連続的に、組み合わせる経験される場として美術館が整備されるべきと考えます。

■広場ゾーン

北側に設けられたカフェは広場をテラス席として利用でき、南側のワークショップ室の活動が広場に拡張されることで、**神宮道**を行き交う人々の目にも賑やかな場として機能します。

■親水ゾーン

ワークショップ室の大きな庇は、既存の桜の木陰とつながり、**疎水に沿って気持ちのよい散歩コース**、憩いの空間となっています。ウッドデッキを疎水沿いに、レストランまで連続させることで、**親水ゾーン**を形成します。



■管理ゾーン

二条通りからの主たる作品搬入経路、職員通用口等の管理動線の他、駐車場、カフェ近くにサイクリストのための駐輪場を集約します。

■庭園ゾーン

サブ搬入経路を北側に移すことで、小川治兵衛の日本庭園を尊重しレストランの前庭と位置づけて、成立を検証・再整備を行うことが可能です。展望デッキからの知恩院への眺望と合わせて一体的な庭園ゾーンと捉え直し、**動物園側からの来園者**にも落ち着いた空間を提供します。



収蔵庫屋上は休憩・イベントスペースとして展望デッキを整備



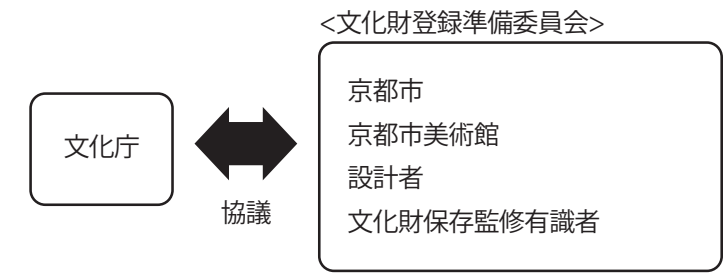
疎水側からレストランを見る

その他の留意点

文化財として保存するために

■文化財登録準備委員会の設置

改修に際しては、**文化庁との協議**をしながら設計を進めていくことが重要となります。したがって、円滑かつ正確に設計を進められるよう京都市、美術館、設計者に有識者を加えた**文化財登録準備委員会**を設置することを提案します。



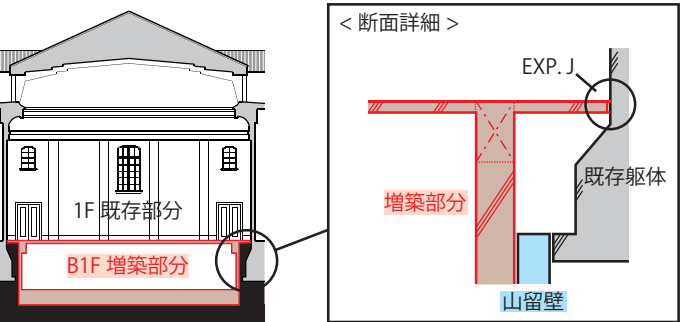
■可逆性のある改修

重要文化財指定を受ける場合も有形文化財の登録を受ける場合も、引き続き美術館として使用していくためには、将来的な仕様の変更があった場合に容易に速やかに**オリジナルの復元・再改修が可能であること**が重要です（可逆性）。改修に際しては、新設の壁や天井は、できる限り**既存躯体や意匠にダメージを与えない方法**で設置、将来の撤去復旧も想定した設計とすることで、可逆性を持たせ、未来に向けた射程での美術館改修を実現します。

■大展示室床の耐荷重対応と地下エントランスロビー

大展示室の耐荷重対応に際しては、西地下室と大展示室の既存躯体・基礎は**エキスパンションジョイント**を採用して新たな地下空間を増築することとします。

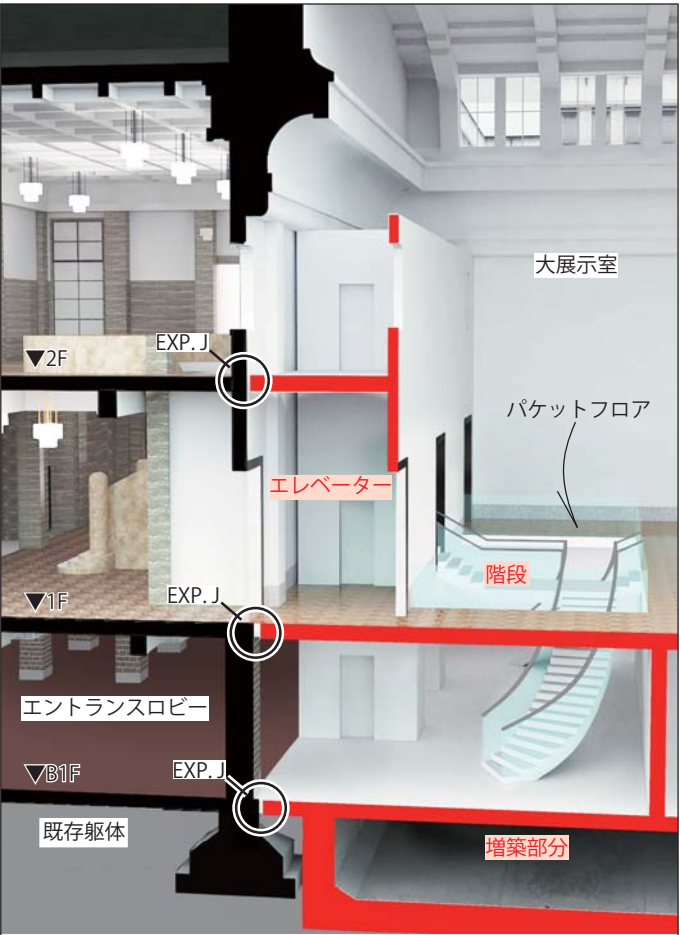
【地下空間の増築の仕方】



■仕上材の積極的な保存、再利用

改修に際し、仕上材に手を加える範囲は最小限にとどめ、改修が必要な場合も既存意匠を極力活かす設計とします。

例えば、**大展示室のパケットフロア**は床耐荷重対応の改修工事に伴い一度解体する必要がありますが、可能な限り保管、スラブ改修後に再利用します。



公開承認施設としての整備

収蔵に適した内装材の調査・選定、独立した空調方式による温湿度管理、総合的病害虫管理の実施、**LED照明の採用**、**展示ケース免震化**など、公開承認施設に必要な事項に対応、かつ、**防火区画形成**や**防犯性の維持**、**バリアフリー**等にも対応します。

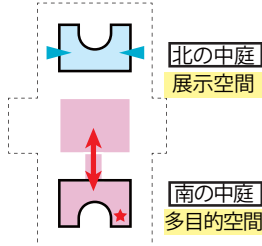
工事費概算

- ・設備計画の効率化によるコスト削減を検討します。
- ・予算規模に合わせた機能の整理が可能のように、付帯設備は**独立性が強い配置計画**とします。
- ・既存設備の活用、**文化財登録のためのオリジナルの復元**等、本館改修と新棟建設の予算を柔軟にやりくりして**本計画の目的と経済性を両立**させることに配慮します。

■新棟建設工事 (対象面積7,200m2)	金額(億)
建築工事	36.4
電気設備工事	3.6
空調設備工事	3.8
給排水衛生設備工事	1.5
昇降機設備工事	0.9
計	46.2
■本館改修工事 (対象面積11,907m2)	
改修工事(建築・電気・機械ほか)	46.3
計	92.5
消費税相当額(8%)	7.4
総計	99.9

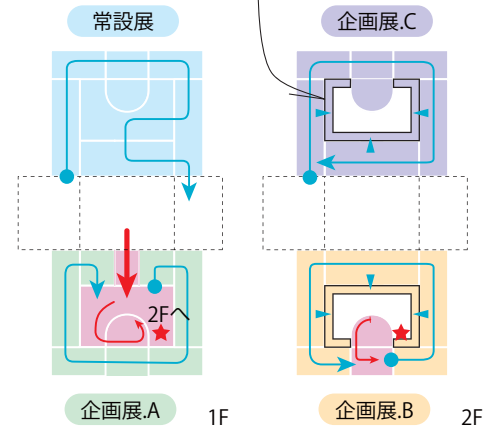
① 明るい展示空間と多目的空間として再生し、フレキシブルな動線をもたらす2つの中庭

- 2つの中庭は**大屋根をかけて室内化**します。
- 北の中庭**は彫刻やインスタレーション展示が可能な**明るい展示空間**、**南の中庭**は普段はくつろぎを提供するロビー空間として、また、特別展のレセプションなどにも利用可能な**多目的空間**とすることを提案します。
- 南の中庭**は大展示室から**直接アプローチ**も可能な計画とします。
- 南の中庭**は**エレベーター**を設置し**既存階段室、中庭と一体的に計画**します。
- チケットもぎりの位置をアレンジする事で、展示に合わせた**様々な動線計画**が可能です。
- 2階レベルに**バルコニー**を設けます。バルコニーは2階各展示室の休憩スペースとなります。



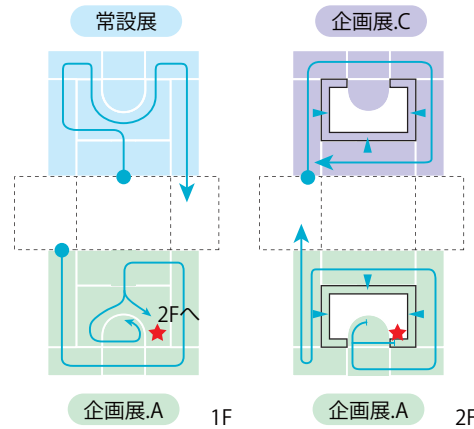
<凡例> ■ 共用部 → 共用部動線 ● 展示室内動線 ★ エレベーター

【使い方の例.1】 2Fバルコニーは鑑賞中の2F小休止スペースです。



南の中庭から南の各展示室と2Fへ動線を振分けすることもできます。

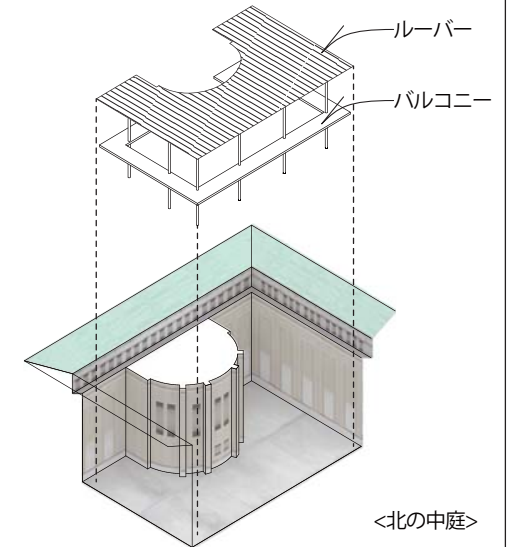
【使い方の例.2】



南の中庭を有料ゾーン内の展示空間とすることも可能です。中庭を中心に、1F,2Fを使った展示も可能です。

② 大屋根の構造、デザイン

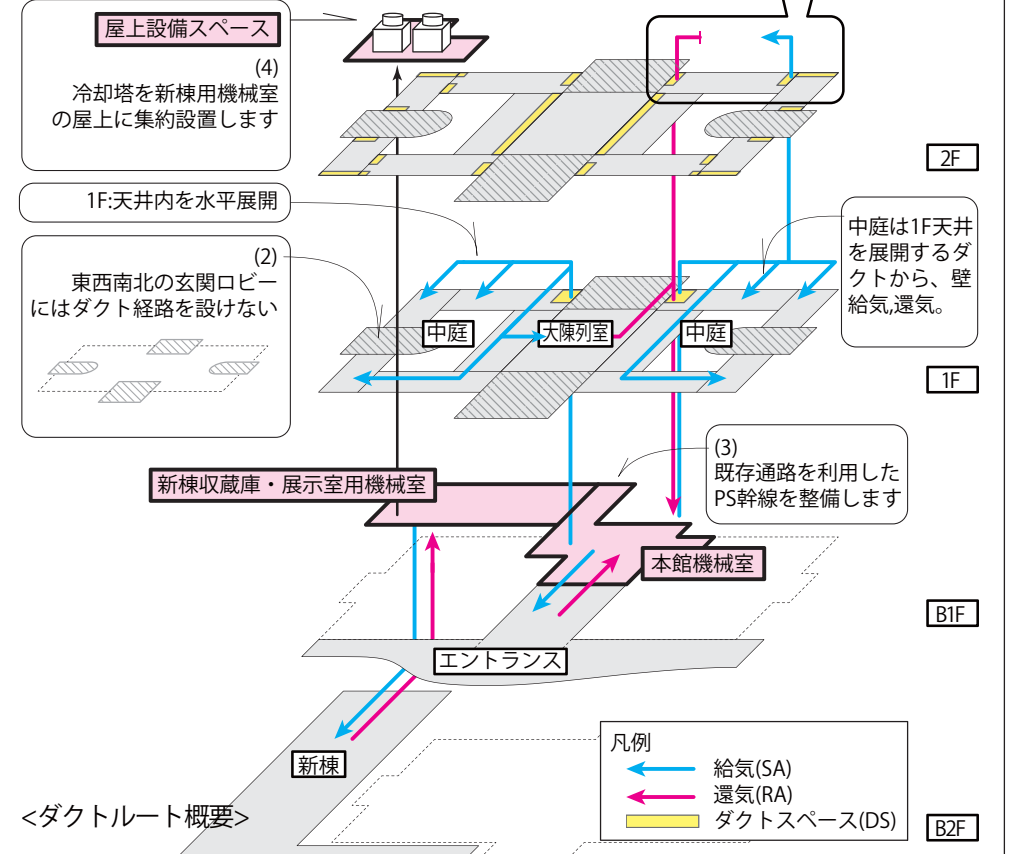
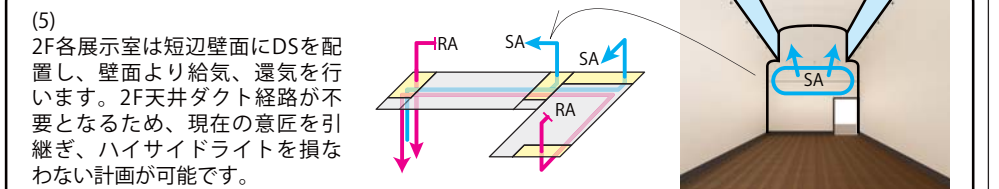
- エキスパンションジョイントにより既存建物から**自立した構造の屋根**とします。
- 北の中庭:「**ガラス+ルーバー**屋根」
南の中庭:「**鉄骨造屋根+スリット窓**」による採光とします。
- 2階床レベルに**バルコニー**を設け、水平力を負担させることで、柱とスラブによる**軽快な架構**が実現できます。
- どちらの中庭も**調光可能**とし、映像を使った**インスタレーション、レセプション**など、**多様な使い方**に対応する中庭を提案します。



<北の中庭>

③ 中庭再整備に伴う建物全体の設備計画

- 既存中庭の設備機器を全て再整備する本館機械室、新棟機械室に移設し、**中庭には設備機器を置かない計画**とします。
- 文化財指定を目指す4つの既存玄関ロビーは**ダクト経路を設けない計画**として、**既存意匠を保存**します。
- 新旧の機械室を近接させ、効率的な幹線ルート**を設けます。
- 展示室に設ける**入れ子状の内壁を生かしたダクト経路**を設けます。



<ダクトルート概要>

凡例
 ● 給気(SA)
 ● 還気(RA)
 ● ダクトスペース(DS)

